



文部科学省委託事業「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業」  
**令和6年度「共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道」 実施要項**

- 1 テーマ 「同じ目線で共に学び、生きる～立たない学びカフェ～」
- 2 趣 旨 平成26年の障害者権利条約の批准や平成28年の障害者差別解消法の施行等も踏まえて、学校卒業後の障がい者が生涯を通じて学び続けられる社会、共に学び、生きる共生社会の実現に向けて、道内の持続的な生涯学習活動推進のための研究協議や実践の交流等を通して、実践内容の分析・共有、取組の充実を目指す。
- 3 開催日時 令和6年(2024年)12月7日(土) 10:30～16:00(受付10:00～)
- 4 会 場 旭川市大雪クリスタルホール(北海道旭川市神楽3条7丁目)  
 ※Zoom配信を利用したオンラインでの参加も可能
- 5 主 催 文部科学省、北海道教育委員会
- 6 共 催 NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所
- 7 参加対象 どなたでも(障がいのある人や家族、学びの支援者・関係者、障がい者の学びに関心のある人など)

8 日程及び内容

	10:30	10:45	12:00	13:45	16:00
開会	第1部		第2部	第3部	
	(1) 行政 説明	(2) 講話	(3) 立たないカフェタイム (昼休憩)	(4) 分科会 前半13:45～/後半14:45～	(5) トーク セッション
	大会議室(1階)		レセプション室(2階)	各会議室(1階)	大会議室

※第1部及び第3部の一部には、手話通訳・筆記要約が付く予定です。

- (1) 行政説明：「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」  
 文部科学省 障害者学習支援推進室長 星川正樹氏
- (2) 講話：「立たない立ち飲みバルを始めたきっかけと車椅子ユーザーである私が伝えたいこと」  
 立たない立ち飲みバル主催者・車椅子女子 牧野美保氏
- (3) 立たないカフェタイム：お昼休憩を兼ねておりますので、御自由に参加ください。(体験、展示コーナーもあります。)
- (4) 分科会：前半13:45～14:30 / 後半14:45～15:30

分科会1	分科会2	分科会3
渡辺道治と考える 特別支援教育 講師：渡辺道治氏	インクルージョンの本質 子どもたちの笑顔から… 講師：島信一郎氏	障がい者の生涯学習の視点から 北海道の社会教育について考える 講師：松井翔惟氏

※申込の際に、参加する分科会を前半後半1つずつ選択していただきます。

※それぞれの分科会の前半後半の内容は同じものになります。

※分科会講師プロフィールは、道教委ウェブサイトでご覧いただけます。

- (5) トークセッション：「誰もが生きやすい未来って？」  
 立たない立ち飲みバル主催者・車椅子女子 牧野美保氏  
 文部科学省 障害者学習支援推進室 専門職 別田果菜子氏  
 (モデレーター) NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所 五十嵐真幸氏

- 9 申 込 令和6年(2024年)11月22日(金)まで  
 ※右の二次元コードからお申し込みください。  
 ※当日の飛び入り参加も可能です。

申込フォーム



10 その他

- ・第2部立たないカフェタイムでのドリンク・軽食の提供については事前チケット制となります。メニュー・注文方法等については、別途参加者あてに御案内いたします。
- ・当日の写真や映像について、ウェブサイトや報告書等で活用する場合がありますので、予め御了承ください。

# 同じ目線で 共に学び、生きる 共生社会コンファレンス in 北海道

障がいのある人もない人もみんなで車椅子に乗って同じ目線で学びましょう！  
車椅子をお持ちでない方のために会場に車椅子を用意してお待ちしています！

令和6年12月7日(土) 10:30~16:00  
受付 10:00~ / 参加無料

会場 旭川市大雪クリスタルホール (旭川市神楽3条7丁目)

## 第1部 行政説明・講話



<行政説明>  
障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について  
文部科学省 障害者学習支援推進室長  
星川正樹氏

<講話>  
立たない立ち飲みバルを始めたきっかけと  
車椅子ユーザーである私が伝えたいこと  
立たない立ち飲みバル主催・車椅子女子  
牧野美保氏

## 第2部 立たないカフェタイム

みんなで車椅子に乗りながら  
同じ目線のコミュニケーションを  
楽しみましょう！

展示：バリアフリー図書 (協力：道立図書館)  
体験：eポッチャ (協力：志エンボディ合同会社、スポーツ庁)

※ドリンク・軽食は事前チケット制での提供となります。  
※お昼休憩を兼ねておりますので、ご自由に参加ください。

## 第3部 分科会・トークセッション



<分科会1>  
「発達障害と考える特別支援教育」  
教える学校・主宰  
理辺 道治氏



<分科会2>  
「インクルージョンの本質  
子どもたちの笑顔から」  
インクルージョン未来推進機構代表  
島 信一朗氏



<分科会3>  
「障がいの生涯学習の視点から  
北海道の社会教育について考える」  
医療法人福生会学びのディレクター  
松井 翔惟氏

<トークセッション>  
「誰もが生きやすい未来って？」

立たない立ち飲みバル主催・車椅子女子  
牧野美保氏  
文部科学省 障害者学習支援推進室 専門職  
別田 果菜子氏  
NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所  
五十嵐 真幸氏

令和6年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道  
参加申込フォーム (右記の二次元コードより必要事項を記入の上、お申し込みください)

URL:<https://www.harp.lg.jp/oMiARpxI>



お問い合わせ先

北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目 道庁別館 TEL:011-204-5994 FAX:011-232-2236

〈主催〉北海道教育委員会 文部科学省

## 第1部 行政説明「障害者の生涯を通じた多様な学習活動の充実について」

説明者： 星川正樹氏  
(文部科学省 障害者学習支援推進室室長)

平成26年に「障害者権利条約」が批准されたこと、平成28年当時の文部科学大臣が保護者から将来に対する不安を聞いたことなどが、障がい者の生涯学習推進の契機となったことが述べられた。

障がい者本人に行ったアンケートでは、80%以上が学習機会の充実を望んでいるにも関わらず、生涯学習の拠点となる社会教育施設において、大半の職員が障がい者の生涯学習支援に関わった経験が無い等、障がい者本人に学びの意欲があっても、周囲に学びの機会が不足しているという状況から、国の目指す方向性として「誰もが障がいの有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現」が示された。国、学校、民間団体などが役割分担して多様な学びの場づくりを推進するほか、教育、福祉、労働等の分野の連携を強化することの重要性が伝えられた。

また、文部科学省が実施した調査から、障がい者の生涯学習の取組の進捗状況について説明があり、今後の課題として、「教育」と「福祉」が連携していくこと、今後取り組んでいきたいこととして、関係省庁との連携を促進していくこと、「共に学ぶ」を大切にしていくことが挙げられた。

## 第1部 講話「立たない立ち飲みバルを始めたきっかけと 車椅子ユーザーである私が伝えたいこと」

講師： 牧野美保氏  
(立たない立ち飲みバル主催者・車椅子女子)

車椅子生活が始まったきっかけや、車椅子での生活を「私にとって普通のこと」と捉えていること、現在はパラレルワークとして複数の活動に取り組んでいることのほか、飲食店での勤務経験から「飲食×福祉」の可能性に気づき、「固定観念を壊す」をミッションとして、「立たない立ち飲みバル」の主催を始めたことなどが紹介された。

前向きな母の言動や学生時代に受けた周囲からのサポートを通じて、「できないことも工夫すればできる」「できないことを人に頼ることも大切」「できないことはテクノロジーで解決すれば良い」と考えるよ



うになったが、就職活動では、企業から「車椅子で営業をしている人はいない」「車椅子の人を雇用した前例が無い」などと言われ、障がいのある人の就労において、職場環境や人間関係、やりがいなどの面で大きな課題を感じたという。

しかし、車椅子の視点だからこそ気付けることを伝えるなど、「立つことができないからこそできることがある」と認識し、これからも共生社会の実現のため「自分にできることは立たないこと」というメッセージを伝えていきたいと述べた。

## 第2部 立たないカフェタイム

立たないカフェタイムは、車椅子体験を通して同じ目線でのコミュニケーションを楽しむことをコンセプトに実施し。障がい者の学びをより身近なものにするため、バリアフリー図書の展示ブースやeポッチャ体験ブースなどを設けた。



### 【展示・体験ブース】

#### 1. バリアフリー図書

誰にでもやさしく読めるLLブックや、大きな文字の本など、障がいの有無に関わらず読書ができる資料を展示した。

音声と一緒に文字や画像が表示される、マルチメディア DAISY 図書を画面で確認したり、実際に点字絵本を触ってみたいりするなど、普段目にすることが少ないバリアフリー図書に関心が寄せられた。

#### 2. eポッチャ体験

スイッチや視線入力など、それぞれの得意な操作方法でボールの高さや角度を調整してポッチャを楽しむ体験ブースを、志（こころ）エンボディ合同会社の協力で設置した。

視線でポッチャのランプを操作する難しさを感じながらも、ねらい通りに発射できたときには喜びの声が上がるなど、eスポーツの楽しさと可能性を体験してもらう場となった。

### 【カフェタイム協力団体】

#### 1. じょぶぷれいす桜

塩パン、クロワッサン、ふぞろいらスク、パウンドケーキ、マドレーヌ

#### 2. でこぼこワークス

ドライカレー、トマトチキンカレー、フライドポテト（塩味、ガーリック味）

#### 3. 株式会社 厚友会

ドリンク各種（ホットコーヒー、アイスコーヒー、ウーロン茶、ジュース 等）

### 【車椅子貸出協力団体】

旭川市社会福祉協議会

東川町社会福祉協議会

当麻町社会福祉協議会

鷹栖町社会福祉協議会

比布町社会福祉協議会

上川町社会福祉協議会

東神楽町社会福祉協議会

株式会社 厚友会

株式会社 マルベリー

カムイ大雪バリアフリー研究所

### 第3部 分科会1 「渡辺道治と考える特別支援教育」

【講師】： 渡 辺 道 治 氏  
(教え方の学校・主宰)



「非認知能力の育て方(自制心の磨き方のコツ)」「不適応行動改善への道のり(3つのアプローチ)」など、参加者は、講師が用意した30種類以上の「講演メニューお品書き」の中から自分が聞きたいメニューを選んで挙手し、講師は要望の多かったメニューの話をするという形で進化した。

「やる気を起こす秘訣(おすすめパターン15選)」では、「やり方を示す」「明確な評価を与える」など、子どものやる気を喚起する15のパターンを紹介し、その中から、それぞれの子どもの特性に応じて使い分けることが重要であるとした。また、バスケットボールを題材にした人気漫画を例に挙げ、ヒットした理由の一つとして、「登場人物全員に欠点を描いたことだ」との作者の分析を紹介。「欠点は愛を引き出す余白スペース」と捉え、その視点を特別支援教育に生かすことの重要性を説いた。

また、「聞きたいメニューを選ぶ」という行為自体が「自分で選択する」ことであり、やる気を高めるための仕掛けの一つであることも示され、参加者にとって学びの多い時間となった。

### 第3部 分科会2 「インクルージョンの本質 子どもたちの笑顔から・・・」

【講師】： 島 信一朗 氏  
(インクルージョン未来推進機構代表)

子どもたちの遊び場が減少傾向にある中、道内でもインクルーシブ公園が建設され、子どもたちがインクルージョンを身近に感じられる環境が整いつつある。

島氏は、学校訪問やイベント等で出会う子どもたちとの関わりを大切にしている。その中で、島氏が熱々のうどんを食べたり、上手に絵を描いたり、マラソンをしたりする様子に触れ、「目が見えないのに、どうやっているの?」と疑問をもつ子どもたちに島氏は一つ一つ答えていく。そのような中で、子どもたちから「島さんと一緒に活動するために工夫しよう」という動きが自然に生まれるという。



島氏は、障がいのある方への配慮は、教わるのではなく、自然な触れ合いの中で体験を通して学ぶことが重要であり、そのような機会は年齢が低いほどよく、子どもたちにはそのような出会いのチャンスを大切にしてほしいと述べた。

「見えなくなっただけに見えるようになったインクルージョンを自分の生涯を通じて伝えていきたい。これが自分の命の意味である。」という島氏の力強いメッセージが参加者に届けられた。

### 第3部 分科会3 「障害者の生涯学習の視点から北海道の社会教育について考える」

【講師】： 松井 翔 惟 氏  
(医療法人稲生会 学びのディレクター)



「どうしたら、既存の活動に障がい者も参加できるか」というテーマで、「みらいつくり大学」における社会教育実践と障がい当事者団体DPI北海道ブロック会議の紺野氏との出会いについて語られた。

松井氏は、「地域生活は障がい者だけのものではない、健全者である私は地域生活に関わっているのか？」と疑問を抱き、「医療専門職として障がい当事者と関わるけれども、医療専門職でしか障がい当事者と関わるができなくなっているのが課題なのではないのか」「同じような次元で話し合っていくことが社会教育実践なのではないか」「1対1の実践の積み重ねで障がい者の生涯学習が進んでいくのではないか」との考えを示した。

紺野氏は障がい当事者の立場から、「事業を実施するときには、対応を事前にあれこれ考えるより、まずやってみて、障がい当事者が来たら一緒に考えていくという気持ちが大事」と述べた。

### 第3部 トークセッション「誰もが生きやすい未来って？」

【講師】： 牧野 美保 氏 (立たない立ち飲みバル主催者・車椅子女子)  
別田 果菜子 氏 (文部科学省 障害者学習支援推進室 専門職)  
五十嵐 真幸 氏 (NPO法人カムイ大雪バリアフリー研究所代表理事)

トークセッションでは、五十嵐氏の進行により、それぞれの講師の取組についての情報提供やコンファレンスを通して感じたことの意見交流が行われた。普段車椅子を使用していない別田氏は車椅子で活動する中で気付いた不便さや意識の変化について、車椅子ユーザーである牧野氏は雪が多い北海道に来て感じた移動におけるバリアについて語り、講師と参加者は実際に体験して生まれた「気付き」について共有した。

後半は、トークセッションのテーマである「誰もが生きやすい未来って？」に焦点が当てられ、講師からは、「参加者一人一人がこのコンファレンスで体験したことや感じたことを通して『生きやすいとは何だろう?』と考え、身近な人と共有してほしい」、「一緒に考えたり、工夫したりできる仲間を増やし、一人ではできないことを実現していくことが『誰もが生きやすい未来』に繋がっていくのではないか」という車椅子ユーザーとしての思いが伝えられた。



また、福祉や障がいについて興味・関心のない人や、情報にアクセスする機会のない人に、いかに伝えていくかが今後の課題として挙げられた。

## 参加者アンケート

### 会場参加者から

- 講師の牧野さんの活動内容や働き方、そして直面する課題について知ることができた。「できないことでも工夫すればできる」というところが心に残った。
- 実際に車椅子を操作することで、どんなことが大変なのかを肌で感じるすることができた。また、車椅子で同じ目線になることで、まわりの方いつも以上に話がしやすく感じた。
- 分科会1の渡辺先生の話がわかりやすくて勉強になった。軽快なトークで、あっという間だった。もっと聞きたかった。分科会3では松井さんと紺野さんの関係性がとても素敵だと思いながら話を聞いた。当事者とやりとりしながら、余暇活動を作り上げていくことの大切さを感じた。
- 終日楽しめる内容だった。参加者の立場を気にせず同じ目線になれるため、車椅子に乗って参加するのが新鮮だと感じた。講師陣も大変よかった。ぜひ、次も参加したい。
- 休憩時間にもカフェがあるなど、より参加者同士が話をしやすい環境があったことがすごくよかった。たくさんの人と交流できた。

### オンライン参加者から

- 生涯学習に関する現状、障がい者の生涯学習という観点からの行政の在り方などが確認できた。講話では「私にできることは、立たないこと」というメッセージに全てが集約されていたと感じた。
- 講話は、大変ポジティブな内容で自分の生き方について考えていきたいと思えた。すばらしい方の話を聞いて参加して本当に良かった。
- 視覚障がい者用のバリアフリー図書や「みなサーチ」「サピエ図書館」など様々なサービスがあることを知り、とても参考になった。
- 分科会2の島さんの冷静で的確な活動にすごく共感できた。バリアフリー設備が充実しているという「みんなのガリバーひろば」を教えていただいたので、春になったら行ってみたい。

## 成果と課題

### 1. 成果

- ・旭川市で開催したことにより、旭川市をはじめとした上川管内から多くの参加があり、地域の理解が深まった。
- ・参加者全員が車椅子に乗ることで、障がいの有無を無効化し、同じ目線でのコミュニケーションを楽しむという体験を提供することができた。
- ・事業を通して参加者同士のネットワークが構築され、今後の連携や交流の発展にも大きくつながる機会となった。

### 2. 課題

- ・開催時期や会場のほか、広報・周知の方法等を障がい当事者と共に検討し、よりアクセスしやすい事業にしていく必要がある。
- ・道内の事例を発信する場や展示・体験ブース、参加者の意見交流の場を充実させていく必要がある。

## 4 障がい者の学びに関するニーズや実態、地域の学びの環境に関する調査研究の実施

障がい当事者の学習ニーズや学びの環境整備について調査し、障がい者の学習を支援するための具体的な方策を検討するため、先進的な取組をしている地域への現地調査を実施した。その結果については、「地域連携コンソーシアム」において報告した。

### ① 北海道立生涯学習推進センターにおける学びのニーズや実態等に関する調査研究

#### ○目的

各種計画に「障がい者の生涯学習」に関する目標や事業を位置づけている都道府県や市町村への調査等を行い、障がい者の生涯学習を位置づけた計画策定に向けた課題を把握するとともに、障がい者の生涯学習を進めるための効果的な計画づくりについて調査分析し、その成果を発信することで、各市町村において障がい者の生涯学習の推進に向けた様々な取組の展開に資することを目的に実施する。

#### ○研究テーマ

市町村における社会教育中期計画等への「障がい者の生涯学習」の位置づけの実態～障がい者の生涯学習を特別なものにならないために～

#### ○研究期間

令和6年度～令和7年度（2か年）

- ・道内外の自治体における社会教育中期計画等への「障がい者の生涯学習」の位置づけ調査及び分析（1年次）
- ・調査を踏まえ、道内自治体計画への「障がい者の生涯学習」の位置づけによる効果等についての普及啓発及び情報発信（2年次）

#### ○実態調査

- ・見えない障壁への挑戦と協働の組織化（滝川市）
- ・地域再建と人間観の深まり（長野県栄村）
- ・学校卒業後の学びの場づくり（東京都練馬区）
- ・障がいのある子どもと一緒に育つインクルーシブ教育（大阪府豊中市）
- ・県教委における大学との連携による普及啓発（兵庫県）
- ・生涯スポーツによる障がい者の生涯学習の実践（新潟県十日町市）
- ・障がい者を含めたすべての村民にやさしいまちづくり（鶴居村）
- ・障がい者の生涯学習を普及啓発する取組（宮城県仙台市）

### ② 各地の障がい者の生涯学習の実態についての調査

#### ○道内

- ・「いっしょにね！文化祭」（札幌市）
- ・「HAKODATE COLLECTION 2024」（函館市）
- ・「みんなで楽しもう!!生涯スポーツ」（恵庭市）
- ・「ミヤジマガクエンコレクション 2025」（札幌市）
- ・「旭川レク・ポッチャ選手権大会」（旭川市）

#### ○道外

- ・北陸ブロック 共に学び生きる共生社会コンファレンス（石川県）
- ・共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 仙台（仙台市）

# 北海道立生涯学習推進センターにおける学びのニーズや実態等に関する調査研究

市町村における社会教育中期計画等への「障がい者の生涯学習」の位置づけの実態  
～障がい者の生涯学習を特別なものにならないために～

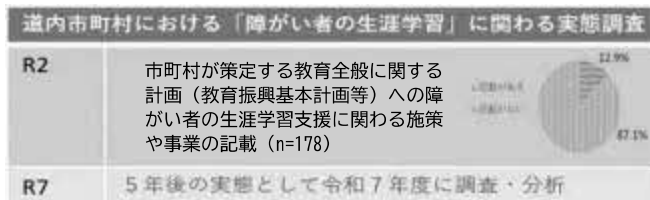
## (1) 研究期間

令和6年度～令和7年度（予定）

- ・道内外の自治体における社会教育中期計画等への「障がい者の生涯学習」の位置づけの実態調査及び分析（1年次）

※1年次に実施すると計画していたが、令和2年度に当センターが実施した「障がい者の生涯学習に関わる実態調査」から5年後の経過を分析するため、研究の2年次に道内全市町村（札幌市を除く）を対象に調査を行い分析する。1年次は、道内外の地域における実態調査を行った。

- ・調査を踏まえ、道内自治体計画への「障がい者の生涯学習」の位置づけによる効果等についての普及啓発及び情報発信を行う。（2年次予定）



## (2) 実態調査

### ①「見えない障壁への挑戦と協働の組織化（滝川市）」

○障がい者との見えない壁を明らかにし、克服する挑戦

滝川市ライオンズクラブは知的障がい者施設への支援を継続しており、障がい者の経験を広げるためにスポーツ協会に相談し、障がい児のカヌー体験を実現させた。

この取組を通して、指導方法や環境等の条件を整えれば障がい児の世界を広げ、様々な可能性が見いだされることが確信されていた。



○課題を共有する人々の協働を組織する生涯学習実践（地域社会教育実践）

障がい者との見えない障壁を超えるためには、教育委員会の枠を超えて協力者を募ることが必要であった。B&Gの協力を得て必要人員は確保されたが、この経験は地域の団体や個人、教育委員会、行政の協働なしでは、この「見えない障壁」を乗り越えられなかったことを示している。滝川市の実践は、既に自分たちの協働の実践の意義と課題について自覚しており、今後も創造的な実践を展開する可能性を備えている。

### ②「地域再建と人間観の深まり（長野県栄村）」

○地域課題を住民相互の学習による地域再建

これまで住民の自治による主体的な学習の実践が行われてきた地域であったが、長野県北部地震（2011年3月12日）の震災後の国の補助金により行政依存・村長依存の体質が地域に広がり、人口が半減する地域もあった。

そのような中、小滝集落では、復興プロジェクトチームを組織し、公民館の